

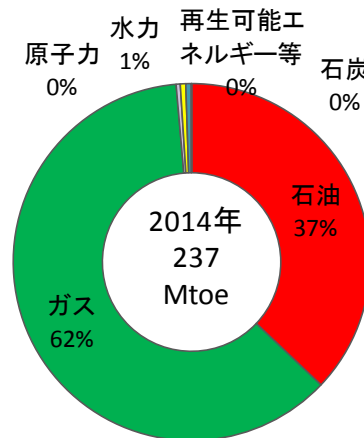
4-4 イラン

1. サマリー

1. エネルギー事情

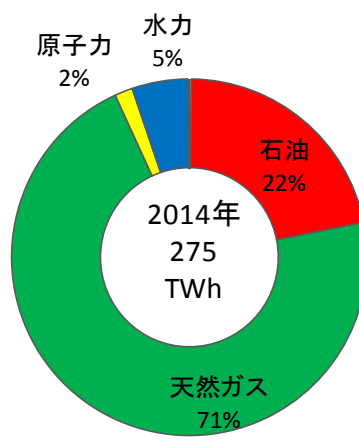
- (1) 一次エネルギー供給量 (2014年) : 237 百万 toe (日本の 0.54 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2014年) : 3.03toe (日本の 0.87 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2014年) : 133%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 556.1 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 46.8%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 7.12 CO₂ 換算 ton (日本の 76.1%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015 年末) : 原油 100 年以上、天然ガス 100 年以上

一次エネルギー供給構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 最高エネルギー評議会：2001年10月設立。大統領を議長とし、エネルギー資源の国益のための適正利用、石油・天然ガス生産・消費の適正化、環境汚染防止策などエネルギー全般に関わる政策に関する協議、調整、決定を行うとされる。
- 石油省およびエネルギー省ほか関係官庁：個々のエネルギー政策を立案、実施する責任と権限を持つ。たとえばバイバックに代わる新契約形態（Iran Petroleum Contract: IPC）に関しては、石油省がその素案を作成した。
- 国会・国会エネルギー委員会：大規模石油・天然ガス事業提案や大型合弁投資案件を審議し、必要な立法措置を取る。IPC に関しては、国会の承認が必要か否かについての見解は分かれている。

(2) 基本政策

- イランのエネルギー政策の中心は、国内に賦存する石油、天然ガスを海外に輸出・販売し、獲得した外貨を基に以下の3点を速やかに実施することにある。
 - 老朽油田の改修、ガス圧入、新規探鉱開発による原油生産能力の増強
 - 国内石油精製設備の新・増設による国内向け石油製品供給能力の拡充
 - 天然ガス生産能力の増強、国内利用の推進による余剰原油の輸出振り向け

(3) 最近の動向

- 2015年7月14日に核合意が成立し、2016年1月16日にIAEAが、イランが核開発の制限を実施したことを確認する報告書を発表し、これを受けて欧米諸国は対イラン制裁の解除・一時停止を宣言した。これにより、イラン産原油のボイコットは終了した。
- 対イラン制裁の解除・一時停止を受けて、イラン石油省は上述のとおり、IPC と呼ばれる新契約形態を発表することを試みたが、IPC は「外資を優遇しすぎている」等の批判が国会および最高指導者事務所などから上がり、その公表は遅れている。
- 2016年8月にはIPC をめぐる国会審議が非公開で行われたものの、「埋蔵量の所有権、技術移転、主権の問題」などをめぐり、未決着の問題が残っていると報じられている。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2014年、イランは我が国にとって第6位の原油輸入先（16.9万b/d、シェア4.9%）であり、2016年1月に制裁解除を控えた2015年のイラン産原油輸入量はほぼ横ばいで推移した。2015年のイラン産原油の輸入量は17.0万b/d、シェアは5.0%であった。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Islamic Republic of Iran

(2014年)

(1) 一次エネルギー供給量		237 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		3.03 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.51 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		133 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量		556.1 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量		7.12 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	0 %
	石油	37 %
	天然ガス	37 %
	原子力	0 %
	水力	1 %
	再生可能エネルギー等	0 %
(8) エネルギーの輸入依存度		-33 %
(9) 石油の輸入依存度		-88 %
(10) 輸入原油の中東依存度		— %
(11) 原油の輸出先	第1位	中国
	第2位	インド
	第3位	日本

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA

(10)～(11) : MEES, 2016. 7. 1.